

後京資基うととあはれおとせし彼はかたか
 らあうしととあはれおとせし彼はかたか
 うととあはれおとせし彼はかたか
 うととあはれおとせし彼はかたか
 うととあはれおとせし彼はかたか
 うととあはれおとせし彼はかたか
 うととあはれおとせし彼はかたか
 うととあはれおとせし彼はかたか

右清輔朝臣集不花庵史園本書寫校合

源師光集

嘉永九年

初よこし見置ふかりおむこの浦よお敷をみめいふま
 ちう海ある海士のともみうれりのおん處をみる松浦島
 一島く志ここの浦れうまはをらんあてやたるむと
 西中堂と云と云

隣家堂

まのまぬ者と云るともや堂はらるこの行よ枝うつとせぬ
 行路堂

一いつのりくる

あやあしや花のふたしと思ふよもさよと日教のさああ哉

〇

右清の緒

西中柳

まゑよあはれ立のりか物とらんあ柳のちとさきりくる

白川よきく後上の人く花見留るふいふあひ

くしてゆ唇とくふくはすやうやうえう

あふまきり侍ふ

あふまきり侍ふ

春のふし哉

花とくそくせの中も慰しきまふんよひのあはれなる

卯花

我着の月花をうらまへてあはれあはれあはれあはれあはれ

時香

ちときん待えぬさうしあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

左大臣家歌合時香

郭公の志ねたれし女をあやめまふよあはれあはれあはれあはれ

五月歌

五月五日ともあはれまにけういふさうさうさうさうさうさうさう

例ありぬとちゆ小侍なるは七月七日大納言也

七ツのめとちゆぬあへうねらむしやあへうねらむしや
とトたりしうと

此間闕

皇嘉門院近江守とてむとむとむとトフツ
侍也

人かみ那若一死海に沈びましはつうひぬるあへうねらむ
あへうねらむ

あへうねらむとて海の人とみしてはらんとあへうねらむ

二條院の御所とてなすひしてのはく河の内侍也

あへうねらむとて海の人とみしてはらんとあへうねらむ

あへう

人をあまむしうとて人泪も物も神のまゝとてたもとと
人く顔のあまむしうとてはらむとあへうねらむ

孝能朝臣

人あへうねらむとてはらむとあへうねらむ
あへう

古くあへうねらむとてはらむとあへうねらむ

海上眺望

朝ふたよ志ちらくるやよおまよりやむすふ沖のくちか
入る別

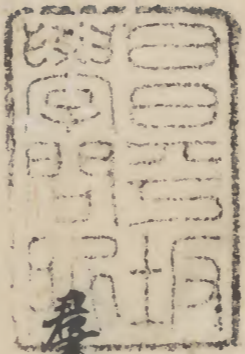
うら海よのつら道成あも款くらそやそ思ふぬ縁よ

陵園妾

松の戸とつをむさそとあそむもねりさるるふさの月



右源師先集秘有之書源を以て之を改也



羣書類後卷第二百五十六

慶應乙丑

